

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS大学進学コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現	① クラス全員が、それぞれの希望する進路に進めるようにする（3年）	C	特編授業等により、大学試験に必要な基礎学力をつけることができた。現役で入全員が、第一志望校には進めなかった。志望校の絞込みが遅い。	面談指導等を通して、早い段階から志望校研究に取り組み、受験対策を充実させる。
		② 個々の学習習慣（家庭学習）を定着させる（1年）	B	課題提出、追試験などを習慣化するよう努めた。寺子屋授業を通して学習習慣は定着してきている。しかし、個人差が大きかった。	部活動参加者に対して補習等を実施する。
		③ 実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望の現役合格をめざす（3年）	C	3学年になってから学習意欲が高まり、共に励ましあいながら士気を高め、受験に望んだ。低学年のうちから高い意識を持たせる必要がある。	低学年時から受験を意識した学習習慣や生活態度が取れるように指導する。
		④ 「総合的な学習の時間」、「大学見学ツアー」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる	B	面談を通して、自らの志望と真剣に向き合うようになった。	「大学研究」や「大学見学」を通して、さらに意識が高まるように計画的に指導する。
		⑤ 「寺子屋学習」を通じ、個々の学力の伸長を目指す	B	学習習慣の定着により学力は向上している。さらに参加者を増やす工夫が必要。継続させ学力を高める。	個別指導の充実。スタディサブリの活用等。
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	キャリア教育によって、個々の生徒に適切な望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。自らが掲げたテーマに対し、調査研究した内容をプレゼンテーション、ディスカッション、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。	A	土曜授業を活用し、生徒たちの主体的な「学び」力を引き出すことが出来た。1年生が昨年度末に訪問した東日本大震災被災地訪問も、2年次も継続して事後学習を充実出来た。3年間をかけた体系的な繋がりのある力を育成していくことが課題。	J-1で取り組んだことは、生徒の向上や実学的な効果等を詳細に分析、有効と認められれば、単年度の実施ではなく継続的に、より発展的な方策を常に発想、計画、実行に繋げるべきである。時代のニーズに対し敏感な対応を張り、それに対応した内容、実践を常に心がける。
		系統別のカリキュラムでは、授業による知識の定着と、現場での実習による実践力をバランス良く習得し、生徒の進路実現の推進力とする。	B	夏期休業の特別授業を利用して、幼児教育の体験ボランティアに多くの生徒が目的意識を持って参加した。事後学習においてレポート作成などを通して体験し学んだことをより深めることが出来た。	保育だけでなく看護等、体験・実習型のカリキュラムを充実させ、生徒の実学的な力を養成する。
		2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを早い段階から身につける。	A	各授業の特性を生かし、段階を踏みながら進路に結びつく実力を養成することが出来た。小論文模試なども効果的に活用しながら生徒の実力定着に結びつけることが出来た。	AO入試、推薦入試本番に向け、早い段階からの意識付けをすることで、より深く高度な実力を身につけることが出来ると思われる。各教科の分野の特性を生かしながら、幅広くきめ細やかなサポートをすることで、更なる生徒の実力アップにつなげる。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代の社会に適応できる「人間力」の育成に努める。	A	部活動や生徒会活動などの課外活動は年々盛んになり、校内の活気に結びついている。文化祭などもより一層充実してきている。さらに多くの生徒が、困難や苦勞をいとわず、今の自分を乗り越え、さらに自らを成長させる活動に積極的に関わっていくことが重要。	新入生や、現在積極的に課外活動に参加していない生徒にとって魅力的な活動を展開していく。教員が生徒に対し、積極的に課外活動への参加を促していく。現在の社会が求める人間像を常に念頭に置きながら、そこで大いに活躍できる生徒を、さらに育成していく。
美術工芸コース	希望進路の実現	個別面談を行い、目標実現のため、適切な支援を行う	A	社会と美術の関わりについて考え、進路を捉えられた。	
		専門実習の更なる充実と共に、美大入試科目の充実を図る	B	美大入試で時代の変化に対応していく余地がある	コミュニケーション能力の向上をはかる。PCのデザイン対応。
		アートセンター（美大予備校）及び進路情報会社との連携強化	A	講習会、直前講習などに参加し、情報共有できた	
	生徒の心身の充実	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う	A	生徒の希望進路の実現の為に連携出来た。	
		美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進	A	目標に向かって挑戦し取り組むことができた。	
	生徒作品の充実	過去の美工展を総括し、更なる作品の充実を図る	A	日頃の学習の成果を発表することができた。	
		様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める	A	夏的美術館見学をはじめ、視聴覚テキストによる学習を行った。	松本市美術館の企画展の見学をもう少し増やしてもよかった。
40周年記念展示を通して更なる意欲の向上を図る		A	体験学習など様々な機会に話げできた。	今後、より一層情報収集していきたい。特にメディアデザインなど。	
生徒募集活動の活性化	学校ホームページの積極的活用	B	中信美術展出品作、美工展など載せて頂いた。	より活用する努力が必要	
スポーツサイエンスコース	競技力・実績の向上	各競技ごとに目標設定をし個々の技術力とチーム力を向上させ達成する。	A	柔道・空手道全国大会出場、野球北信越3位、サッカー県2位、バドミントンベスト8	他コースの生徒が多い部活動の運営、練習方法をコースでも検討する
	学力向上と人間形成	高校生としての学力向上に努めるコミュニケーション能力・基本的生活習慣の向上に努める	B	問題行動の発生を減らすことができた。下位層の底上げを行った。	入学時にガイダンスを行い、学校生活についての指導を徹底する。
	希望進路の実現	競技力向上と学力向上の両立。生徒に適した進路を考え、担任進路指導と連携をとりサポート。進路開拓を積極的に行う。	A	100%進路を決定することができた。上級学校での競技継続者の増加	学力・競技力の向上を行い、進路に対する目標設定を明確にして、希望進路の実現を目指す
食物科	各担任への連絡体制を整える。	食物科連絡会を行い、各月の予定と行事の日程や役割の把握を徹底。	A	月々の連絡会を計画的に行うことができた。	さらに連絡を徹底し、担任との連携を強化する。（土曜のHRなど）
	総合調理実習への対応	授業内容を研究し、他校の状況を調査しながら総合調理実習の授業を構築。	A	全国大会に参加をし、他校と情報交換を行い、情報収集に努めた。	授業の詳細についてはさらに検討が必要である。
	課題研究の各学年での指導内容の確立	最終的には3年で行われる卒業記念作品展に繋がる課題研究の各学年での目標を明確にし、指導体制を整える。	A	各学年ごとに系統立てて実施することができた。また、内容についても生徒に調理師としての力をつけさせるために様々な工夫を行った。	引き続き指導していく。
	平成28年度カリキュラムの検討	一般教科と専門教科のバランスを考え、より充実したカリキュラムを作成する。	A	現状での最善策が捻出されたカリキュラムとなった。生徒、教員に大きな負担となっている補講に対する対策も盛り込まれた。	進学希望者への一般教科におけるさらなる学力の定着を図るカリキュラムを考えたい。
1学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材になるための基礎固め	高校生としての基本的生活習慣を確立させる	A	ポイント指導で学年面接になる生徒はいなかった。遅刻常習者は少なかった。	遅刻常習者0を目指して指導を徹底する。
		学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る	B	朝SHRでドリルを行ったが、基礎学力定着にはもう少し工夫が必要であった。	確認テストなども行っていきたい。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する	B	球技クラスマッチの運営を体育委員に任せ、スムーズな進行をバックアップした。	このような機会を増やしていき、主体的に行動できる人材を育成していく。
		他者への思いやりの意識を持たせる	A	性に関する教育講座などを通じて、自己肯定感と共に他者への思いやり意識が向上した。	日常生活の中でも機を見つけて生徒たちに訴えていく。
将来の進路について意識させる	A	「職業理解のためにガイダンス」の講師をOB・OGを中心に実際に働いている方をお願いした。その結果生徒たちの大きな刺激となった。	来年度も進路ガイダンス・模試などを通じて、進路意識の向上を図っていく。		

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
2 学年	健全な学校生活を送れるように支援する	日々の学習に対する意識の向上	B	3年生に向けて指導を重ねていく	
		他者を思いやる意識の向上	A		
	進路学習への支援	将来の進路について、主体的に研究し、計画そして実行する力を養う。	A	進路意識を充実させていく	
平和学習の充実	沖縄研修旅行の意義と沖縄の過去・現在・未来について学び、恒久平和について考えさせる。	A			
	学年集会・課題学習・読書習慣などを総合的に計画・実施し、生徒が主体的に考え、活動する場を設ける。さらに総合力を備えさせる。	B	自主的に考えさせる機会をもう少し増やせばよかった。		
3 学年	心身の充実	心身の健康に伴い、社会への関心を深め、進路実現に向かう姿勢を養う。	B	社会への関心・進路実現への探求心を深めるサポートができた。将来への不安やストレスによる心身の健康維持に課題有り。	思春期特有の心身の不調を訴える生徒に対し、家庭と学校そして医療機関との連携強化。
	希望進路の実現	第一希望への進学・就職実現に向けてサポートする。	A	進路相談・懇談会・進学就職ガイダンス・職場体験などを行い、生徒自身が主体的に進路決定できるよう指導ができた。	進路決定後の指導を、クラスとコースが連携して計画的に実施する。
	社会適応力の育成	学力・教養・マナーの定着を図り、『人間力』の育成に努める。	A	学習活動・特別活動ならびに課外活動などの取り組みの中で、創造的な理解力や知識を身につけさせることができた。	
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める	A	おおむね達成できた。	今後も小まめに呼びかけをする。
		授業変更・自習監督の円滑化	A	おおむね達成できた。	出張等の連絡・次週課題の提出2日前までを更に徹底する。
	来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携	B	早い段階での作成ができた。	各科コース任せの部分があるが、学力向上のためにも教務主導の面を増やす必要もある。
		各教科との連携	B	各教科任せとなり、綿密な連携はできなかった。	主任会も含め連携を強化する。
	新テストへの対応	新テストの研究・検討	C	自立した成果をあげられなかった。検討はするも漠然としたものであった。	学力向上委員会との連携をし、現在のカリキュラム上も実質的に学力向上に結び付けていく。
	成績処理の新システムの導入と新指導要録への対応	学級担任がクラスの状況をより正確に把握できるように成績処理の流れを構築。新しい指導要録への対応を各担任へ周知徹底する。	A	新しい成績処理の流れを構築するためにシステムを改善した。新指導要録への対応は順調に行われた。	担任のチェック体制を強化する。
	憲法人権平和教育	戦後70年（18才選挙権・安保法案強行採決）を踏まえ、憲法制定の経緯・9条の意味を考える映画「日本国憲法」と県弁護士会出張講演	A	憲法について考える良い機会となった。18才選挙権を前に有意義であった。弁護士の講演は長く難しかった。	法の支配や日米関係については、今後の課題。憲法については短いスパンで定期的に取り上げていきたい。
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底	A	教務主幹行事はすべて予定通り中学校へ連絡することができた。	校内行事の連絡1ヶ月前の徹底。
		ミスをなくす	A	予定通り行うことができた。	教務会にて複数の目でチェックを行う。
	適正な定員確保のための入試	入試基準等の厳格化	B	成績の内規について一部満たさない生徒がいた。	最低基準を規定
		入試基準、入試方法を含めた入試全体の見直し	A	基準の大幅なアップ、A方式入試の廃止、総合進学でも5教科評定値を基準に	定員確保のための、基準の見直し
	間違いのない教科書選択	各教科との連携	A	各教科主任と連携し、適切な教科書選択ができた。	より良い教科書選択ができるようにする
円滑な教科書販売ができるように		A	各学年・各担任と確認し、円滑な教科書販売ができた。	より早めに動き、円滑な教科書販売ができるように努力したい	
進路指導部	適正な自己認識と進路選択	必要かつ有効な進路情報の提供	B	「進路の手引き」、担任、学年会を通して情報を提供・共有できた。	「進路の通信」をこまめに発行し、より親身な情報提供をする。生徒が活用しやすい進路指導室を作る。
		ガイダンス・カウンセリング（個別面談）による支援	A	1学年のOB,OGを講師とした新たな取り組みが好評だった。	来年度の1学年も、同様の形式のガイダンスを進路指導部主導で行ってはどうか。
		自己理解のための適性検査・諸検査の実施	B	事後指導の不徹底もあり活用し切れていない。	「語彙読解力検定」導入を新1、2学年で検討。
	希望進路の実現	講演会や説明会、調査や見学・体験などの機会の設置	B	1ターツアップ 看護体験などを仲介し、積極的な参加を促した。OB・OG講演会は食物科のみ実施。	各コースで再検討を要す。保護者向け講演会（進学資金など）実施を検討したい。
		就職未決定者0の実現	A	就職は希望者のほぼ全員が決定した。	早め早めの進路意識をHR・集会等で持たせるよう動きかける。面接指導を徹底する。
	社会人として必要な資質の育成	第一志望校への合格	C	総合的に学力不足。受験体制に乗ることすらできない生徒が多い。	個人(生徒、教員)任せでなく、組織的に学校、学年会、教科会、科・コースが情報を共有尽力。
基礎学力・一般教養の定着		C	個人差はあるが筆記試験に対応できない。	組織的、系統的な学力向上の取り組みを。	
基本的生活習慣を身につけさせる		B	生徒の客観的学力、家庭学習の様子など、把握し切れていない。	「学力判定テスト」(A ネット)等、毎年統一的にを行い、個人面接、懇談会等で活用する。	
面接指導を通じてのマナーの定着	面接指導を通じてのマナーの定着	A	校長、教頭、進路指導部、担任、教科担任等で分担し親身な面接指導をした。	面接で自己PRができるような学校活動、校外活動の充実を促す。	
	健康診断で指摘を受けた者に対する早期の受診勧告	B	年3回の勧告と保健だよりでの経過報告を行ったが受診率は低め。	歯科の受診率が低いので歯科の勧告回数を増やす。	
環境衛生部	生徒・職員の心身の健康問題の早期発見・早期治療	担任と協力して生徒の欠席状況・心身の健康状況を把握する	B	連携はできたがもっと早く対応できた事例もあった。	3日目対応の徹底。学年へも報告。
		養護教諭の特性と保健室の機能を生かし様々な訴えをしっかりと受け止める	A	約4割が精神的理由での来室であるため、継続した関わりが必要。	担任・学年・特支と連携し、学校全体で生徒を支える。
	日々の保健指導・健康相談活動の充実	生徒の様子を紙面で担任に毎日報告、必要に応じ学年とも連携し迅速的確に対応	A	頻回来室する生徒について情報共有、対応ができた。	学年に対しても紙面で報告し、速めに対応する。
		避難訓練等の実施を通して生徒の防災意識の向上	B	消防署の方にも来ていただき、災害に対する意識付けはできた。	避難訓練のやり方の見直し
	防災対策・防災教育の充実	様々な災害に対応できる環境整備	C	校舎が入り組んでいるので、生徒来校者に対してわかりやすい避難経路の工夫が必要。	校内見取り図の見直し
学習環境の整備	教師生徒による全校清掃の徹底	A	清掃チェックマニュアルの活用、生徒会執行と清掃委員の連携により行事前美化ができた		
	校内巡視（清掃委員会）による、校内美化の注意喚起	A	機械を見つけては巡視をした。清掃委員も意識を高め、自主的活動も目についた。		

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決	B	アンケートは早期の対処としては有効	指摘や申し出をしやすい雰囲気の設定を図りたい
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実	A	相談体制と対応、掘り起こしの機会など、かなり細かく機能している	各担任との連絡体制について考えたい
	生徒の基本的な生活習慣の定着	身なりに関する指導の徹底	B	校内においては、ほぼいい	朝夕駅前指導の（教員側の）うっかり忘れの防止策を考えたい
		授業への取り組み姿勢に関する指導の徹底	C	P指導が統一的に適用されていないとの指摘がある	各教科会も交えながら改善策を考える必要性もある
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実	B	性教育にはある一定程度の効果があると感じている	係としての研修と研究を高めたい
		情報通信端末類ならびにネットやブログの使い方に関する指導の充実	B	日常のネットマナー指導にはある一定程度の効果があると感じている	世の中の事件の背景を日常的に考察したい
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討	B	担任と学年主任の負担が軽くなるよう細かな配慮をしている	事後指導と同時に次の指導の未然防止という観点を強めていきたい
盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	懸念や指摘（被害や苦情）に対する迅速な対応と周知徹底	B	早い対応はしているものの、苦情が繰り返されるケースがあった	啓蒙や指摘の他にも、周知徹底の方法を多く揃えたい	
	校内での盗難の抑止	B	再発防止策の確立と確認については進展があった	生徒、先生方、見回り、各顧問との未然防止の具体策を定着させたい	
生活指導方針の周知・徹底	自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナー	B	自転車事故が散見され、マナーに対する苦情が連続することがあった	啓蒙のみならず、姿を見せる指導を定期的に行なう必要がある	
	在校生と保護者への積極的な情報提供	B	細かな教室掲示資料、保護者宛て通知などは心がけている	P T Aの会議などの参加率のアップ、また、その活用法も考えたい	
	受験予定者と保護者への積極的な情報提供	B	冊子の作成・配布などは大切であると感じている	情報発信の質と機会（量・回数）を高めたい	
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする	B	生徒主体で活動できるようになったが、教員間と協力ができなかった。	教職員にも働き掛けていきたい。
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく	A	活発になってきた。	継続していく。
		東日本大震災の復興支援やインターアクトなど、学校外に対する活動を充実	B	生徒会としては活動ができなかったが、総進の生徒が活動できた。	来年度はボランティア活動や募金活動を計画している
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られる文化祭にする	A	生徒が積極的にになり、活気ある文化祭になった。	今年度の反省を生かし、今年度以上の文化祭をつくる。
課外活動の充実	充実するよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展	A	部活動講演会とも協力して部活動の河童ちゆかに成果を上げられた。	施設・設備面での検討を行う。テスト前の部活動の見直し	
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	①学級・学年P T A活動の充実②地区P T A活動の充実③委員会活動の推進④研修機会の充実*特に②の地区P T A活動を充実させたい。	B	例年通りの活動はできたが、総会・役員会・地区PなどP T A活動への参加者を増やすことが課題。	参加したいと思う内容や企画など、参加者を増やすための工夫を検討する。P T A研修旅行の参加を呼びかけ、親睦の機会とする。
	私学助成中信地区私学助成推進協議会組織の活動を展開。	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る	A	全地区現状維持の目標達成。	今年度本校単独の担当地区は、木曾6町村・筑北村・原村であった、来年度も同様の地区でいいのか検討が必要
	同窓会組織の充実と活性化	P T A びーたーばんなど他団体との協力を図る。先生方の協力を仰ぎ、同窓会役員との連携をはかる。総会を有意義なものとし、参加者を増やす工夫をする。	B	同窓会役員の協力で総会出席者が増え活気ある同窓会となった。世代を超えより有効な同窓会組織を築く	同窓会役員と連絡を取りながら更なる組織の充実活性化を図る
図書視聴覚部	図書館利用の活発化。	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化	B	個人カードを利用し、貸出冊数が増加し、利用者も増えている。さらに環境整備・広報活動を充実させたい。	委員会活動を活発化させたい。広報活動を充実させたい。
	朝読書のサポート	名著、名作、新書、沖縄など平和教育関連の図書を積極的に購入する。	B	推薦図書を中心として、図書を購入した。生徒からアンケートを実施し、希望図書を購入した。	情報を集め、良書を選定していきたい。
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する	B	各教科で教材購入予定を事前に提出するようにし、教材の利用を働き掛けた。新たな教材の利用はあったが、まだ増えておらず充分とは言えない。	BDを利用できることを含み教材の利用をさらに働き掛ける。また特別教室のエアコンがそろそろ寿命で、順次新しくしていく必要がある。
生徒募集	学校の教育方針に見合った定員の確保	本校の様子を中学の先生・生徒・保護者に理解してもらう。中学校訪問や進路講話を行い、本校志望の良い生徒を確保	A	進路講話を中心に、中学校との連絡を密にした、12月は教頭が近隣の中学を訪問	来年度は廃止
安全管理委員会	学校安全の推進	生徒の生活安全、交通安全、災害安全等、地域社会・家庭との連携を図り強化していく一斉メール等も活用する	A	個々のマニュアルを検討し、修正した。一斉メールの受信者も95%を超えることができた。	マニュアルの冊子化
学校振興委員会	学年一斉授業の計画立案	12学年の学年集会形式の授業計画を立て、学年会・分掌（進路指導・生活指導・教務）との連携で開講を目指す	C	委員会は開かれませんでした。	来年度は廃止
部活動後援会	部活動への効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する	B	2学期になってしまったが適正に配分できた	一律に・平等に早く配分できるように検討を早くする
	部活動活性化への予算配分	部活動活性化へ予算配分を適正に検討する	B	鍵などに補助金を助成	
校務分掌委員会	次年度校務分掌・決め方内容の検討	職員が互いに前向きに仕事ができるように、最善の策を講じる	B	新しい校務分掌委員会で検討した	スリムかつ機能的なものに変換、委員会を2つ新設（将来構想・学力向上）
教育課程委員会	教員のコマ・選択状況などの把握	教員のコマ・選択状況などの把握が確実にできるようにする	C	学科コースの検討により、教科へおろす	来年度から廃止
	新教育課程の作成	生徒の進路実現に向け、より普遍的なカリキュラムを作成	C	学科コースの検討により、教科へおろす	
特別支援教育委員会	発達障害・不登校傾向など支援を要する生徒に対し、職員間の情報共有授業参加への働きかけの立案実践	職員会他での情報共有	B	継続した情報共有	支援シートのごまめな更新
		職員研修の実施	B	参加率のアップ	実施日時の工夫、（水曜日放課後など）
		アンケートほかの活用	B	S Cによる授業参観は大変助かったが、検討は不十分	検査結果の閲覧を可能にする（h-QU）
		定期考査時等の相談室の活用	B	職員の常駐	
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊かにし言語文化に対する関心を深める。	漢字検定全校受検	B	ｽﾀｰ高潔生徒への対応	
		小論模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける	A		
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習	A		

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく	B	教科アンケートを活用しながら、各科・コースに応じた指導力の向上に努めた	生徒第一を主眼に置いた指導向上に努める
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する	B		生徒一人一人に浸透する指導の研究に努める
		一般・推薦入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う	A		個別指導の徹底もあり、入試での得点力が向上した
	カリキュラムの検討	各科・コースのニーズに応じたカリキュラムを検討していく	C	十分な検討ができなかった	生徒のニーズに合わせたカリキュラムの研究を進めていく
数学科	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。	B	年に2回行う予定であったが、1回しか行えなかった。問題集を渡し、事前学習を指導した。	年に2回できるように計画する。合格率を上げるように指導する。
	各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。	B	授業以外での指導を行ったが、目標を立てて取り組ませることができなかった。	学校全体の数学のレベルが上がるように指導する。
理科	学力の定着と理系進学者への対応	新課程シラバスの作成	A	2016年度の新課程のシラバスが完成した。	2017年度以降、大きな変更があれば、適宜、訂正をしていく予定である。
		実験や教材等を効果的に活用し科学的基礎力の定着を図る。理系進学者には科学的思考力の向上を意識した授業展開	B	教科書の内容を、1通り学ぶためには、問題演習・実験・課題研究等の時間数が十分確保できていない。	特に復習の家庭学習を促し、それにより確保された時間などを、問題演習・実験・課題研究等の時間に回す。
外国語科	基礎学力の充実	生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開	B	習熟度別講座展開により、無理のない授業進行を図ることができた。	講座再編でさらに授業の充実をはかる。各講座の到達目標を定める。
		長期休暇の課題提示とアフターフォロー	A	休み明けテストの実施と、事前の課題提示ができた。	長期休暇の学習促進を図る課題提示を行う。
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強	A	ALTの関わりのおかげで、特にスピーキングの面において生徒が前向きに取り組んだ。	様々な講座で積極的にALTの活躍場面を多く設け、生徒の4技能向上を目指す。
	進路実現のサポート	センター・二次試験・私大入試に向けた問題演習と個人指導	B	問題演習の機会は数多く持つことができたが、個々の志望校対策に課題が残った。	模試等を活用した面談を通して、生徒が主体的に志望校分析をしていけるように励ます。
		サテライト教材の活用	A	サテライト教材への生徒の興味関心が高く、積極的な参加が見られた。	ストーリーング教材等も活用し、生徒が主体的に教材を活用していける体制を作る。
	英検の受験促進および二次試験面接指導	A	面接指導が功奏し、英検二次試験で高い合格率を上げることができた。	英検受験者を増やすような働きかけをし、面接指導も継続して行う。	
美術科	美術を通して生徒1人1人の成長を目指す。	それぞれの分野において基礎力を身に付ける	A	生徒一人ひとりに合った指導を心掛け徹底した	土曜日を活用し更なる向上を目指す
		集中力、持続力、体力の向上	A	学年を増すごとに大幅な向上がみられた	教材研究と生徒分析を更に融合させる
		探究心、向上心を持って制作する	A	自らの作品を常に評価し続ける中でより高いレベルを目指せた	進路（美術系大学等）を1年次から意識させることで更なる向上が望める
		幅広い視野を持ち、自己表現力を身に付ける	A	より多くの作品を目に触れさせ作者の制作意図等を考えさせられた	鑑賞教育におけるインターネットの活用を更に工夫
家庭科（普通教科）	生活者としての知識や技術の習得	衣・食・住に関する実習の充実を目指す。	B	2時間続きの授業は、行事や休日に重なった場合の授業時間のロスが大きい。	2時間続きの授業の解消。授業の1コマを3限か4限にすることで、実習への対応は可能。
	消費者教育の充実	衣類の繕い方を習得し、資源としての衣服を有効に活用していくことを学ぶ。	A	実習を通して、資源を有効活用する体験的な学習ができた。	衣服のリサイクルやエコクッキングなどの体験的な学習を継続していく。
		消費行動が社会と密接に関わっていることを知り、グローバルな視点を育てる。	A	身近なニュースを取り上げてスピーチを行うことで、社会問題に目を向けることができた。	フェアトレード等を通して、途上国の生産者にも目を向けさせ、地球規模での持続可能な取り組みについて学ぶ。
共生社会について学ぶ	介護、子育てについて学び、支え合う社会について考えさせる。	B	少子化、高齢化の背景や、人々の生き方と社会の在り方に目を向けられるようにしたい。	性別役割分担意識をなくし、男女が協力して家庭や社会を支えるには、どうあるべきか、身近な問題を通して考えさせる。	
家庭科（専門教科）	実習を通してより高度な技能の習得を図る	① 製菓実習では2教室に分け、1台2名で実習を行う。	A	① いっそうの技術の習得を図ることができた。	H28からの総合調理実習への対応では、他校の状況を調査しながら、より実践的な授業を構築していく。
		② 3年まとめの実習・発表の実施。		② 3年間の成果を発表する良い機会となった。	
		③ 1年集団調理実習の充実。		③ 去年と同じ献立にし内容の充実につながった。	
	各専門教科を関連付けて学ぶ	調理理論を1単位から2単位へ	B	各教科間のリンクがうまくいかなかった。	調理理論が実習に反映されるような授業構成を考えていく。
課題研究の充実	各学年での目標を明確にする。また、食料科の生徒として、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせる。	B	OBOG講演会、おせち料理発表会等、生徒への啓発につながった。	外部講師講演会については、内容・講師等を、よく吟味しながら検討していく。	
情報科	①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。（情報モラル）	B	SNSについて著作権や肖像権について理解が必要。インターネットを安全に活用できた。	SNSについて具体的な例を示すことにより理解を向上する。カメラ付きの端末についての理解の向上。
		②情報通信ネットワークの適切活用で情報を収集処理表現	A	最低限の技術を習得し、思い通りに使いこなせるようにする。	基本的な技術を習得するために、文字を打つという技術をしっかりと習得させていく。
		③コミュニケーションを行う能力を養う	A	スライドの表現力を向上させる。工夫して飽きさせないスライドを作れるようにする。	情報を理解し、分かりやすく表現できるようにさせていく。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握	A	仲介業者を入れて全国平均等も見やすく、継続をしていく	特になし
		バレー・バスケットボールによる集団スポーツでの体力コミュニケーション能力の育成	B	コミュニケーションの取り方をより工夫する	1学年により工夫を入れる
		柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。	A	概ね良い	特になし
	心と身体の育成のために・・・	「心と身体のバランス」の重要性についての育成	A	概ね良い	特になし
		青春期の「性」に対する考え方の育成	A	概ね良い	特になし
	現代の「少子高齢化」・「社会保障」等の諸問題の育成	B	時事問題をより入れる	新聞記事等をより活用する	